

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2770901904
法人名	特定非営利活動法人 つむぎの家
事業所名	グループホーム 柚木
訪問調査日	平成 20 年 11 月 25 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 5 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2770901904
法人名	特定非営利活動法人 つむぎの家
事業所名	グループホーム 柚木
所在地	高槻市富田町5丁目11番5号 (電話) 072-697-5126

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年11月25日	評価確定日	平成21年1月5日

【情報提供票より】(平成20年10月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	12 人	常勤	4 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 6.5 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(10月18日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名	
要介護1	0 名	要介護2	2 名			
要介護3	2 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	85.6 歳	最低	79 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人仙養会北摂総合病院、伊藤診療所、藤田歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは阪急富田駅から南東へ徒歩10分の静かな住宅地に、平成16年4月、開設した。2階建の建物の、2階部分がグループホーム(1ユニット)であり、1階部分はデイサービスとなっている。認知症介護のあるべき姿を目指している代表者の牽引力もあって、開設時からのスタッフである管理者や職員が、チームワークよく献身的に介護を行っている。職員の資格取得や外部研修受講を積極的に支援しており、職員の離職率が極めて低い。代表者の自宅がホームの近くであることも加わり、家庭的で目のゆきとどいた介護が行われている。代表者及び職員は「地域に根ざしたグループホーム」「小規模で家庭の延長としてのグループホーム」を目指すことを理念に、サービス向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、①運営推進会議のメンバーに地元自治会や地区福祉委員の追加、②重度化や終末期についての指針の文書化、③災害訓練に近隣の協力を呼びかけること、であった。①は地元(上町)組長の加入、②は重要事項説明書に追記、により改善が図られた。③は火災通報装置設置と避難場所の打診で対応したが、より一層取り組むべき課題として残った。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果は定例会議や運営推進会議で報告し、改善策について話し合った。今回の自己評価は職員が分担記入し、それを管理者がまとめ、最後に代表者が内容の確認をおこなった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者家族代表、地域(上町)組長の出席を得て、3ヶ月に1回開催されている。内容は介護サービス状況や行事の報告、利用者・職員・家族の悩み・相談・情報交換であり、出席者から意見や助言が貰える双方向的な会議となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりや、健康状態などは、家族来訪の際や電話等で家族に報告している。意見箱、苦情相談受付窓口、運営推進会議等において、家族の意見、不満、苦情を聞く機会を設けている。家族の意見等は、会議等で検討して結果を家族に伝えるとともに、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事(秋祭り、文化祭、ジャンボ茶会、バザー等)に参加し、地域の方々と交流している。保育園児やボランティアの定期的訪問も受け入れている。中学生の福祉体験の場として、また、地藏盆の会場としてホームを提供している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所の理念は、「地域に根ざしたグループホーム作り」を目指し、「小規模で家庭の延長としてのグループホーム」を目指す、とあり、地域密着型サービスとして、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム玄関入り口に理念を掲示している。管理者は、定例会議や勉強会、日々の取り組みの中で職員に理念を伝え、理念の実践を確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(秋祭り、文化祭、ジャンボ茶会、バザー等)に参加し、地域の方々と交流している。保育園児やボランティアの定期的訪問も受け入れている。中学生の福祉体験の場として、また、地藏盆の会場としてホームを提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果は定例会議や運営推進会議で報告し、改善策について話し合った。今回の自己評価は職員が分担記入し、それを管理者がまとめ、最後に代表者が内容の確認をおこなった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者家族代表、地域(上町)組長の出席を得て、3ヶ月に1回開催されている。内容は介護サービス状況や行事の報告、利用者・職員・家族の悩み・相談・情報交換であり、出席者から意見や助言が貰える双方向的な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課を訪問して、疑問点について相談し、情報の収集に努めている。介護相談員の派遣を定期的に受け入れ相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に季刊誌「つむぎの家」を送付し、行事の案内・報告を行っている。利用者の暮らしぶりや、健康状態、金銭管理については、家族が訪問した際に丁寧に説明している。家族が訪問できない場合は電話で家族に報告している。	○	訪問できない家族への報告は専ら電話で行っている。電話は生の声で交流できる良い手段であるが、手紙や文書には繰り返し読むことの出来る利点がある。報告手段に手紙・文書を加えることにより、暮らしぶりや健康状態がより明瞭に家族に伝わり、一層顔のみえる関係が築けると思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情相談受付窓口、運営推進会議等において、家族の意見、不満、苦情を聞く機会を設けている。家族の意見等は、会議で検討して結果を家族に伝えるとともに、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者は職員の育成に努めるとともに、職員の自主性を重んじ、働き甲斐のある職場になるように取り組んでいる。職員の離職が少ないので、全ての職員と利用者との馴染みの関係が良く保たれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回、管理者が講師を務めて、内部研修を開催している。代表者は職員の外部研修参加や介護福祉士資格取得を推奨し、費用の一部または全額を事業所で負担している。外部研修受講後は報告書を作成し全員が研修内容を共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、見学を受け入れたり、見学に赴いたりして、事業運営、サービスについて情報交換をしている。互いにスキルアップを図り、その結果をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得して入居できるよう、見学、体験入所によりホームに馴染める機会をつくっている。当事業所が行うデイサービスの利用を経て、入居するケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を共同生活者として支えあう関係作りに努めている。「人生の先輩として教えられることが多い。助言を受けることもある」との言葉どおり、職員の心のこもった対応が利用者に安心感を与えている様子が窺える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向は、入居時のアセスメントを参考に、本人との日常の会話や家族との話し合いで把握している。これらの内容は介護日誌や連絡帳・業務日誌に書き止め、スタッフ間で情報の共有を図り、対応を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を聞き、月1回のミーティングで職員から利用者の状況変化や日常の様子を聞いた上で、ケアマネージャーが介護計画を立てている。介護計画については本人または家族の同意・確認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常、介護計画の見直しは3ヶ月に1回行っている。見直し以前に利用者に変化があった場合はその都度、現状に即した新たな計画を作成している。利用者ごとに担当職員を設置し、介護計画立ち上げシートで要件を一覧できるようにしたことにより、利用者一人ひとりの個別のニーズに対応しやすくなった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行事やレクリエーションは、1階にある併設のデイサービスと一緒にする場合もある。家族の希望があるときは、病院や自宅への付き添いや送迎も、臨機応変に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に基づくかかりつけ医と連携をとりながら、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重要事項説明書」に、「事業所を退所していただく場合」の一つとして、「常時の医療または常時の身体介護が必要になり、共同生活に困難になったとき」を挙げ、入居の契約時にその旨説明し、家族の同意の署名・捺印を得ることとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉遣いや態度で誇りを傷つけないよう配慮している。個人情報の入った記録は施錠できる処に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が少人数のため、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った過ごし方が出来るよう、職員が対応している。行事への参加・不参加も、自己決定に委ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れたメニューを心掛けている。食事の準備や盛り付け、後片付けも一人ひとりの力を活かしながら、職員と一緒にできるような配慮している。食前に口腔運動のため、唱歌を合唱している。職員も一緒に食事しているが、食事介助が必要な場合は、食事介助を優先させている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は、併設のデイサービスと共用であり、週3回、好きな時間に入浴出来るように支援している。希望に合わせてシャワー浴に変えたり、入浴拒否する場合は清拭に変えることもある。リラックスして入浴できるよう、入浴剤を使っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族、本人から趣味や好きなことを聞き、また、新たな趣味ができるよう支援している。壁のディスプレイの創作、階段昇降、テレビ体操、洗濯物たたみ、お米とぎ、カレンダーめくり、掃除機かけなど利用者の負担にならないよう配慮しながら、出来ることや得意なことを行う支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	理・美容室に出かけたり、買物、散歩等、出来るだけ外の空気に触れられるように、職員は配慮し、希望にそった支援をしている。自宅を訪問する支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、外出しやすい雰囲気を作るように心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期避難訓練を年2回行っている。2階から1階玄関まで階段を利用して避難する訓練である。通報元が自動的に分かる火災通報装置を設置した。近隣の協力を得る一歩として、避難場所を確保できるよう地域の方に打診しているところである。	○	運営推進会議で防災対策を議題として提言し、地域の方々との災害時協力体制構築をさらに進められたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は毎回記録し、必要量を摂取できるよう支援している。調理メニューはスタッフが作成し、管理栄養士が栄養バランス、カロリー充足率について助言している。一人ひとりの健康状態を観察しながら、食事形態にも工夫して食欲を促すように、状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂は、こじんまりとして家庭的な雰囲気であり、利用者がくつろげる場となっている。季節感は、玄関前の植木、プランターに植えた花々や野菜、居間を飾る利用者の作品等で感じられるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れたタンス、鏡台、テレビ、家族写真、装飾品等を居室に持ち込んで、その人らしく暮らせるように支援している。職員は本人と家族の協力を得ながら、利用者の過ごし易い安全な居室づくりに、努力している。		